



## 【研究テーマ】

## 1 地域の内発的発展

## 2 農山村フィールド研究



## 井上 果子

いのうえ かこ  
地域資源創成学部

准教授

## キーワード

農山村社会, 内発的発展  
論, 持続可能性, 国際地域  
学, 農村計画学

特許情報・  
共同研究・  
応用分野など

## 研 究 概 要

地域の人々の視点等を読み取るフィールドワークを行い、地域特性・資源を把握し、地域固有の内発的発展のあり方を考察する研究を行っています。特に、農山村を研究フィールドとし、地域固有の文化や社会構造について理解を深め、人々の意識・行動から地域自治の機能や内発的発展のメカニズムを追究しています。

また、地域の自律的発展につながる実践も視野に、研究・教育・社会貢献活動を行っています。

## 1 内発的発展

内発的発展とは、格差を生み出す構造を変革しつつ、人間としての可能性を十分に発現できる条件を創り出すことを目標とする社会変化の過程です。農村部には、豊かな自然資源や伝統・文化遺産などが豊富に存在します。農村部が有している固有の資源・システム・文化とは何か、地域の人々の意識・行動等、まずは実態を把握し、地域の人々の力や地域に存在する資源をもって、どのような社会変化が起こりうるか、まだ目指す地域の姿とはどのようなものかなど、地域の人々とともに考えます。

## 2 農山村フィールド研究

農山村は、私たちに多面的な価値を提供してきました。そこに暮らす人々は、自然と共存し、人間の生存に欠くことのできない食をつくり、衣料や住まいの原材料を提供し、森林保全により自然環境の維持、水資源の確保などを可能とし、自然や社会の関係の中から生活術としての文化を築くなど、豊かな人間社会の構築に貢献してきました。このような、人々にとってなくてはならない基盤をつくり、生命維持に必要な不可欠な価値を提供する農山村の重要性を理解する、あるいは、その農山村の社会・文化的資本を大切に維持・継承している人々について実態を把握するフィールド研究を中心に行っています。また、過疎化・高齢化が進む農山村の課題も直視し、次世代により豊かな地域を継承するには、何がなされなければならないのか、地域の方々と共に考える場を大切にしています。主なフィールドは、宮崎県北部に位置し、世界農業遺産にも認定された高千穂郷椎葉山地域やベトナム红河デルタ農村部などを含みます。

地域の方々と交流し、ともに考え、関わりつつ、農山村の内発的発展に貢献することを目指しています。

## ホームページ

## 技術相談に応じられる関連分野

## メッセージ

「何かをしてあげる」ことはありません。地域が大切にしてきたもの、なくしたくないものをいかに次世代に継承できるのか、一緒に考えることはできると思います。また、これからは、自然とともにある暮らしを大切に、人とのつながりを大切にしたいという理念を共有する方々と互いにつながる場づくりや仕組みづくりも重要になると思っています。